

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111代
印刷所 旭印刷
電話(水俣)4101番

津奈木



津小一年生のみなさん

**給食の時間が
楽しく
嬉しい!!**

今日も楽しい給食の時間になりました。
当番の人たちがそれぞれ自分の決められたやくめを、頑張つて、てきぱきとしてくれたので、みんな一語に楽しく食べることができました。

「いただきます」料理していただいた、給食センターのおばさんがたに感謝しながら、おいしくいただきました。新一年生は、すべてが初めてで、めずらしく楽しいことが多いけど、給食が特にたのしみです。

みんなで仲よく、元気に、やさしい心をもつて勉強に運動に遊びにがんばります。

一言

私はこの町に来て一年になります。いわば転勤族というやつで、今年も五月に引っ越しを行なったばかりです。今回で四年連続の引っ越しであり、毎年一回は引っ越しして大変な苦労となっておりま。妻にはいかげんに早く家を建ててくれと毎度の事だが引っ越しの度に言われているが、転勤もいいものでその土地の文化があり、人情ありで大変に変化もあり楽しいものです。この町に来て一番嬉しかったのは、人情味あふれ、地域の人々が非常にやさしく私達を包んでくれた事です。また、昨年の五月に温泉四季彩ができた仕事早く終了した時には必ず温泉に入りリフレッシュしています。温泉は楽しみのものであり、本当にこの町に来て良かったと感謝している次第です。しかし、この町も人口が伸び悩み状態と聞いておりますが、水俣にも近く海岸線の美しさは目にも鮮やかで素晴らしい風景は何事にも変えられない町の財産ではないでしょうか。そうした状況の中、すばらしい人々と温泉もあり住みやすい環境にありながら人口が増えないのはなぜでしょうか。今後は、このすばらしい環境を持ったこの町が、活気に満ちた町となる事を信じ、祈るばかりです。

(M・S)

平成七年度 社会教育 団体役員紹介

婦人会

津奈木校区

会長 斉藤 道子
副会長 西川 京子
書記 塩山 順子
生協 石田 ミサ子
生協 石田 ミサ子
顧問 松田 ハツエ
顧問 千々岩 順子

赤崎校区

会長 森山 サツキ
副会長 高木 キミ子
書記 藤原 秀代

平国校区

会長 上村 サミ子
副会長 山口 昌子
書記 伊藤 信子

津奈木町PTA 連絡協議会

会長 野崎 慶司
副会長 浜本 祥一
副会長 財部 美智子
書記 竹田 珠一
監査 福山 秀信
監査 千々岩 昌美

顧問 喜多 幸夫

平国小学校
会長 野崎 慶司
副会長 福山 秀信
監事 長濱 里美
監事 村上 満磨
顧問 喜多 幸夫

津奈木中学校

会長 林 賢二
副会長 福田 三継
副会長 谷山 洋一
書記 塩山 順子
生協 福山 のり子
生協 森田 栄喜
顧問 倉本 健一
顧問 金森 靖士

津奈木小学校

会長 野崎 憲章
副会長 竹田 珠一
副会長 財部 美智子
書記 白坂 辰正
監事 鶴田 豊洋
監事 山田 隆衛
顧問 松原 昭

赤崎小学校

会長 岩崎 安志
副会長 浜本 祥一
副会長 千々岩 昌美
書記 林田 和彦

津奈木町老人
クラブ連合会

会長 山下 清茂
副会長 真野 光
副会長 成田 チエ子
副会長 平野 シエ
事務局 元村 義博
監事 坂口 熊助
監事 山路 助

津奈木町 文化協会

会長 西川 裕
副会長 齊藤 宗三
副会長 鶴野 慶昭
理事 山下 茂
副理事長 山口 敦
事務局 真野 嘉一
監事 鶴野 達雄
監事 堀和 弘

「苦勞おかけしますが、
よろしくお願いします。」

北海道の青年と交歓 研修をしませんか!

(平成7年度芦北郡合同青年国内研修生募集)

趣旨
国内で活躍する青年たちとの交流を深めあい、視野の拡大と資質の向上に努める。
また、参加者相互の親睦を図ると共に次代を担う青年リーダーを養成する。

- 期日 平成七年九月十四日、十七日まで(三泊四日)
- 研修地 北海道(札幌市・帯広市・浦幌町)
- 参加者 田浦町(四名)芦北町(四名)津奈木町(四名)引率者(二名)
- 参加資格 郡内各町の居住者で十八歳から四十歳までの独身男女
- 経費 十三万円(個人負担金六万円)
- 申込先 平成七年七月七日まで各町教育委員会へ

お知らせ 童話発表会

趣旨 童話に親しみ、創作活動を活発にする機会を与え、読書意欲の向上を図り、豊かな人間性を育成する

日時 平成七年七月二十七日 午前九時三十分開会

場所 つなぎ文化センター

発表者 (低学年) 津小二名、赤小一名、平小一名(中学年) 津小二名、赤小一名、平小一名(高学年) 津小二名、赤小一名、平小一名

すこやか家庭教育 相談事業 (子育て懇談会)

趣旨 子どもを持つ親が、育児不安や子育てに関する悩みなど家庭教育全般について気軽に相談できる機会を提供し、家庭教育の充実を図る。

日時 平成七年八月二十五日、午後六時三十分受付、七時開会

内容 子育てトーク(三人の先生から話題提供)座談会(質疑応答)個別相談(希望者のみ)当日臨時託児所を設けます。

申込先 八月十一日まで文化センター(七八三〇九六)

住みたくなる町への拠点づくり



生涯学習活動の拠点になるように、また、町民の皆さんが気軽に利用できるようにと職員一同で取り組んできましたが、なかなか思うようにはいきませんでした。私たちの力不足を感じております。今後、ますます「住みたくなる町づくり」を目指し、多くの人が文化センターを訪れてくださるよう、そして町民の皆さんから愛される文化センターへと力を合わせて努力してまいりたいと思っております。

皆さん方のご指導をお願いいたします。

現代の生活は、科学技術の進歩により機械化され便利になりました。家庭では少子化、核家族化が進み、子どもに家事の手伝いなどさせることは殆どなくなったといふてよいようです。昔の家庭では家族の一人一人が子どもであつても家事の分担があり、責任をはたすことを約束させられたものです。分担された仕事を果たさねば家族に迷惑がかかることも学びました。文字では学ぶことの出来ない勤労を通して見えない学力を身につけたのです。

この頃の子どもは「三無主義」などと言われます。社会が学歴を重視し、学校も知育偏重の教育にはしつたためでありましょう。汗

この頃思うこと

芹川 一誠

不足と問題解決能力の低下が子どもたちに及ぼす影響ははかり知れないほど大きいと思います。その意味からも学校教育の中に、夏の激しさや冬の厳しさを留意すべきであると考えている昨今です。話はとびますが、麻原教祖の逮

ここに、こんな人が・・・

応接間は
個展会場

鶴野 申洋さん
(竹中)

玄関の戸を開けると
菊を描かれた油絵が眼
につき、通された応接
間には六枚の絵が展示
されていて、個展会場
に座っているような錯
覚に陥ってしまいました。

今回紹介する鶴野申
洋さん(六十三才)は
みかん農家でソフトボ
ール協会会長や体育協会
理事長をなされていま



したが、現在は奥さんと一人暮らしで竹中區長として地域の顔として活躍しておられます。
幼少な頃、千々岩忠興氏(千々岩英昭氏の兄さん)の絵を見て育ち、青年の頃はミニ美術書を買って、絵を描くことより鑑賞す

る方に興味はあったと話される鶴野さん。

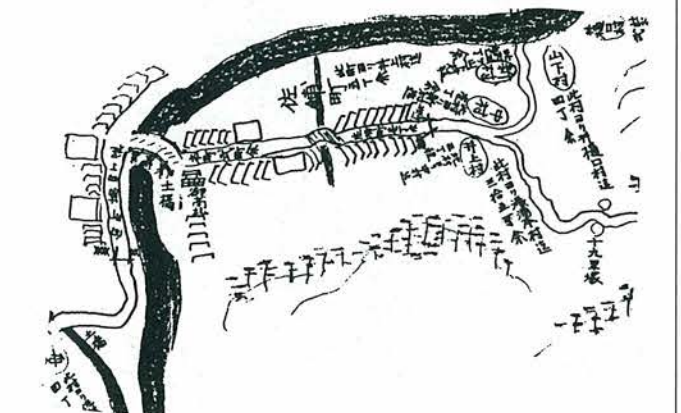
津奈木町の文化協会絵画クラブに発足当初から参加され、宮永先生の指導の基で絵を描き始めて七年がたち、今では約六十枚の絵を所有し、その一部を応接間に置かれたとのことでした。
恒例となった十一月の文化祭に展示できるような作品作りを目標に励んでおられて、絵を描くときは、全ての事を忘れ、時間の経つことも忘れて没頭してしまい、夢中になれるたひとつの道楽だろうと、笑いながら話されるので、つい長時間お邪魔してしまいました。(石田記)

津奈木地名のおこり① 宿駅制度について

津奈木のいわれについては諸説がある。以下、諸説の一つに新たな加えてもらいたい。
千年も昔に編まれた「延喜式」に、田浦・佐敷・水俣が駅家であつたことを記録してある。駅家とは、宿屋があつて食事宿泊ができ馬と人足を用意して、公用私用の通行人の便宜をはかる所である。江戸時代になると宿といひ、芦北郡内では日奈久が半宿で宿だけの設備があり、人馬の用意はしてなく、必要の都度呼び集めた。湯浦と津奈木は夫継所、旅籠も人馬

の準備をする必要がなく、通行人の要求のたびに野良に出てくる者を呼び寄せた。上門村内松ノ木原村で馬借と呼ばれる坂本英家が夫継所であつた。
佐敷から水俣まで行く馬は、四十貫の荷を積んだままとおすことになるが、人足は五貫の荷を肩にして湯浦と津奈木で交替するのがきまりであつた。
宿の間隔はおよそ四里となつていたが、佐敷・水俣は五里でその間に湯治坂、津奈木太郎坂、歌坂の難処がある。送り届けて帰る

と往復十里、どんなに健脚を誇る江戸時代の人でも、一里四十分として休みなしで七時間かかる。重い荷物を持ったまま、長時間歩かされて悲鳴をあげるのは人足である。「かわろい」という声があがるのは当然であつた。
佐敷宿逢生橋の袖と佐敷中の北側に出入の門があつた。鳥居家蔵「芦北往還絵図」ヨリ



油彩「ラバンアジュール7月」1964 境野 一之 作

夏の日差しを受けて、かべいっぱいに広がるつたの葉と、その脇の家で煙突そうじをしている2人の男の奇妙なとりあわせ。
それは、まるで2つの季節が同居しているようだね。

庁舎美術館(60)



参加者のみなさん

薩摩街道巡り

平成6年度から、津奈木町教育委員会と町誌を読む会のメンバーが中心となり始められた薩摩街道史跡めぐりが、今年も5月27日(日)

古中尾地区活動

古中尾活性化委員会

去年の二月に古中尾地区の若手有志が集まり「古中尾は外灯はなみえるのでしょうか、新聞等では「教育の敗北」などと書かれています。永年教育に携ってきた者として歯ざりしりのする思いです。
この若者たちの幼い頃の生活環境など知る由もありませんが、小中学生のころ先生と学級園の除草や鉄打ちをしたり、親子で汗を流して野菜類を植えて成長を楽しんだ経験があつたのだろうかといろいろ想像します。
学校における勤労体験学習は、「師弟同行」が原則ですと先生たちにいつも言っています。家庭でも親子でいっしょに汗を流して働く機会を増やしていく努力をしようではありませんか。

短歌

宮崎 優選

公園の柵めぐらさむ藤なるかただ
一房の花ひくく咲く
野田浦子

妻秋の畑も忘れむ今日ひと日夫の
命日夫を想わむ
寺本ツルヲ

驚の呼ぶ声春陽を流れ来し心うる
おいひと始まる
白浜美和子

置所忘れし鎌を幾度も同じ場捜す
ようやく目につく
柳迫いづも

妹の看病むなく近く弟の柩の中
の面輪安らか
福田八重子

ときかけて花を尋ぬるひまもなく
雨に散りしを惜しみ踏みゆく
西滋子

視界には唯一点の雲りなく空界の



読書感想文 「89匹の猫」を読んで 津奈木小 6年 池上 麻衣

私の家に89匹も猫がいたら、どんなに楽しいでしょうか。学校に行っている時以外は、ずっと一緒に遊ぶことでしょうか。うれしい時は、喜んでくれて、悲しい時ははげましてくれかな。
でも、不安もあります。それは、お世話ができるかなという事です。
この本に出てくるベリ
ーおばさんは、人間に捨てられたかわいそうな猫をみんな拾ってきて、きちんとお世話をしている心の優しい人です。
ある日、猫の鳴き声の原因となり、近所から苦情が出ました。そして、役人が来て、どうにか20匹に行われました。小学生から大人まで、総勢40名の方が文化センターを基に、江戸コース・薩摩コースに分かれ、さわやかで緑あふれる街道へいざ出発進行。途中で、町に残る史跡にふれ、タイムスリップしたかのように、昔の人々の遺徳を偲びながら、楽しく有意義なひとときを過ごすことができました。江戸コース最終の場所、千代塚のうっそうとした木立ちの中で遊ぶ子供たち、そのかたわらでゆったりとくつろぐ人々の姿に、何かホッとするものを感じる一日となりました。昔、津奈木町にいたばってん、こぎやん所は、知らんかったばい。と、参加者の感慨深げな声も聞かれました。これからも続けていただきたい行事と思うのです。(M・H)

肥後狂句

特選

春風は樟の梢に生れし黄緑の葉
のかがやきながら
宮崎優

梅雨あがり洗たく物のオンパレード
面白さ 今さつきまではけんかし
て
神無月

梅雨あがり麦藁帽子は買うとかな
面白さ 覚えて遊ぶ孫の守
面
達生

梅雨あがり 水着が歩くプール側
面白さ 孫と相撲とりきやー負く
ろ

面白さ、副知事さんのさんぢや
ろ
万葉

(次巻) 秋の空 どもこも
一笠 句つつ 八月十四日まで
つなぎ文化センターへ